

研究主題「地域と連携した奉仕体験活動の在り方について

ー交流活動を取り入れた活動の展開ー

東京都教職員研修センター研究部研究課

東京都立一橋高等学校 教諭 興梠 実

I 研究のねらい

東京都教育ビジョン（平成16年4月）では、今日の子どもたちの課題として、「規範意識、公共心、学ぶ意欲の低下や忍耐力の不足（中略）、大人になりたがらない子どもや、将来への夢や希望を描けない子どもが増加し、社会への参画意識も希薄になり、なかなか社会人として自立できない若者が多くなってきている」ことを挙げている。また、「多感な時期の子どもたちに対し、規範意識や公共心を育成していくには、単に守るべき社会のルールやマナーを言葉で教えるだけではなく、実際の社会の中で、体験的に学ばせていくことが重要である」ことを示している。このような課題を踏まえ、解決する一つの方策として、すべての都立高校で教科・科目「奉仕」（以下「奉仕」とする。）が必修化されることとなった。「奉仕」の必修化に当たっては、「学校が地域と連携し、児童・生徒の奉仕活動・勤労体験活動を地域の中で意図的、計画的に行っていくような仕組みをつくっていく必要がある。」とも述べられている。

そこで本研究では、多様な奉仕体験活動の機会の充実を図る一つの方策として、現在行われている学校と地域が連携した活動に、交流活動を取り入れることで、地域と連携した活動が活発化し、より地域に根ざした活動になるとともに、様々な人々との心の触れ合いから、思いやりの心や公共心など豊かな人間性をはぐくむ奉仕体験活動が展開できると考え、研究を行った。

II 研究の内容と方法

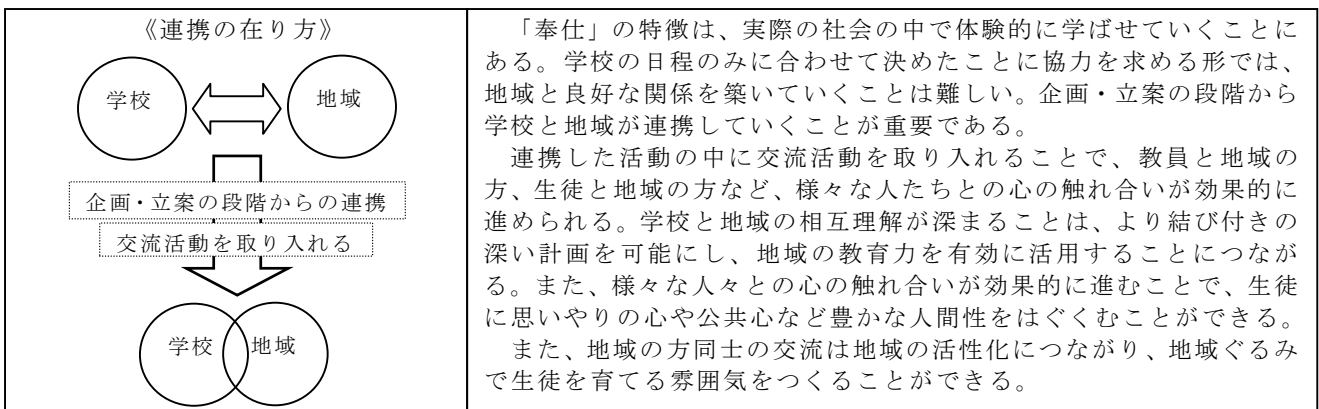
思いやりの心や公共心など豊かな人間性をはぐくむことのできる、交流活動を取り入れた活動の展開について、下記の内容で基礎研究と開発研究を進める。

基礎研究	開発研究
1 育てたい生徒像 2 教育課程への位置付け 3 情報収集(実践研究校やボランティアセンターの訪問、奉仕体験活動支援部会《教育庁生涯学習スポーツ部主催》や研修会などへの参加)	1 地域との連携の在り方についての考察 2 地域と連携した交流活動の実施及び検証 3 交流活動を取り入れた年間指導計画の作成 4 「奉仕」を推進する組織（案）の設定の提案

III 研究の結果と考察

1 地域との連携の在り方についての考察

地域との交流活動を、人間関係を築いたり、情報の交換や共有を行ったり、互いに働き掛けを行ったりする場としてとらえ、連携の在り方について次のように考察した。



2 地域と連携した交流活動の実施及び検証

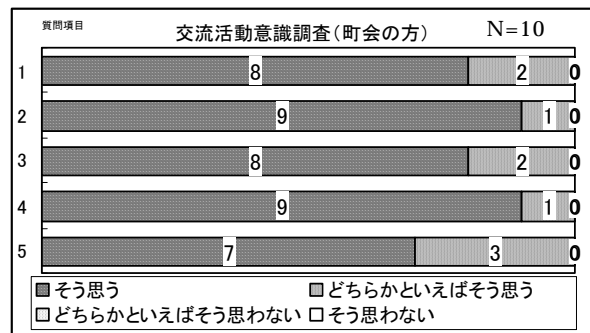
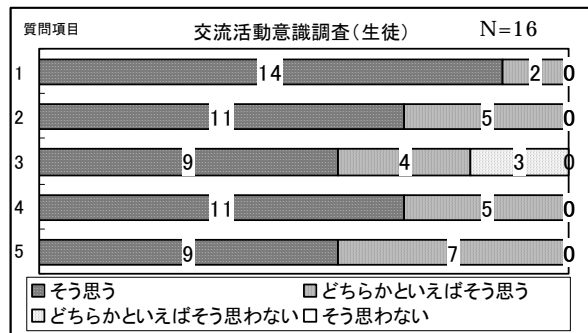
(1) 交流活動についての検証

生徒と町会の方が一緒になり、「記憶力ゲーム」、「他者紹介」などの交流活動を行うことによって、地域清掃活動に対する、生徒や町会の方の意識の変容について調査した。

結果、下記にあるような回答を得た。

質問内容

- 1 地域清掃活動の目的を確認（再確認）することができましたか。
- 2 地域の方（生徒）を身近に感じることができましたか。
- 3 地域（学校）のことをもっと知りたいと思いましたか。
- 4 交流する機会は、有意義であると思いますか。
- 5 交流活動をきっかけに、地域清掃活動では、地域の方（生徒）と積極的にかかわろうと思いますか。



書き込み内容 1

生徒のアンケートから
 「このような交流を続けていけば、さらにより活動ができると思いました。」「触れ合う機会をつくれるようになると地域全体が活気付くから。」「地域の方ともっと仲良くなりたいから。」

書き込み内容 2

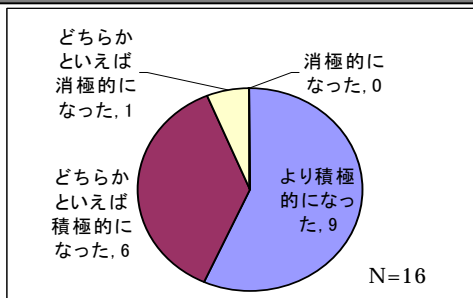
町会の方のアンケートから
 「世代を越えた人間同士、共感をもつことは大切だと思ったから。」「日ごろ、道を行き来するのに、あいさつをし合える環境になってくると思います。」

交流活動を行うことで、生徒や町会の方がその後の活動により積極的に取り組むような教員の働きかけができたり、活動のねらいについて共通理解を図ることができたりすることが分かった。

(2) 二回の地域清掃活動の様子についての検証

6月と11月に地域清掃活動を行った。地域清掃活動は希望参加であるため、アンケート対象が必ずしも一致していないことを考慮し、考察を行った。

交流活動に参加したことで、参加意欲に変化があったか



積極的になった理由

- ・みんなと仲良くなれた。
- ・事前に顔を知っていたことで、ある程度積極的にやる気になっていた。
- ・交流活動でたくさんゲームをし、みなさんとたくさん話しができた。交流活動は楽しかった。

消極的になった理由

- ・交流活動と地域清掃は特に関係がないと思うから。

交流活動を行い、町会の方と共に楽しい時間を過ごしたことや、顔見知りになれたことが、その後の活動に、より積極的に参加するきっかけとなっていることが分かった。また、「二回目の地域清掃を振り返って、活動前と活動後に気持ちの変化があったか」という質問に対して、「あった」と答えた生徒の理由を見ても、「町会の方に『ご苦労様』と声をかけてもらえてうれしかった。」「交流活動で会った町会の方が私のことを覚えてくれていてよかった。」などの理由が挙げられ、交流活動をきっかけとして生徒の気持ちに変容があったことが分かった。

3 年間指導計画

地域との連携の在り方についての考察、交流活動の実施及び検証を踏まえ、年間指導計画について検討して、下表を作成した。

「奉仕」における、地域との交流活動を取り入れた活動の年間指導計画（例）

	学習のねらい	学習内容	指導上の留意点	
社会の一員であること及び社会に役立つ喜びを体験的に学ぶことを通して、将来、社会に貢献できる資質を育成する。	①活動に出会う	<ul style="list-style-type: none"> 「奉仕」を学ぶ意義や、ねらいについて理解する。 「奉仕活動」の考え方について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「奉仕」の概要（意義、ねらい、年間の見通しなど）について学習する。 「奉仕活動」にかかわる人の講演を聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> 単位の修得のために奉仕体験活動に参加するといった動機にならないよう、学習のねらいを理解させる。 「奉仕活動」にかかわる方の講演や、視聴覚教材などを利用するなどして、生徒が具体的なイメージをもち、活動に興味、関心がもてるようにする。
	②活動を考える	<ul style="list-style-type: none"> 「奉仕活動」について様々な角度から学習し、理解を深める。 「奉仕体験活動」の分野及び内容などを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動、地域・社会貢献への取組みなどを学習する。 「奉仕体験活動」の分野及び内容を知る。 活動内容の説明を聞き、希望する「奉仕体験活動」を選択する。 	<ul style="list-style-type: none"> 奉仕体験活動について正しい理解ができるようにする。「～してあげる活動」ではないということを理解させる。 生徒同士がディスカッションする場面や、気持ちを表現する場面を設定して、活動に対する意識を高められるようにする。 学習した内容について、自らを振り返らせる機会を設定する。 活動について具体的にイメージできるような、教材や教具の工夫を行う。
	③活動の準備をする	<ul style="list-style-type: none"> 「奉仕体験活動」を行う上での留意事項について理解する。 各自が行う「奉仕体験活動」について理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「奉仕体験活動」を行う上での基本的な留意事項について学習する。 それぞれの「奉仕体験活動」の活動先について学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に、活動中の留意事項や安全にかかわる配慮事項などについて、教員と活動先が打合せを行い、生徒が十分に理解した上で、活動に参加できるようにする。 活動先の方からの言葉掛けが生徒の励みにつながるため、積極的に生徒の行動を肯定するような言葉掛けを行うよう、協力を求める。
	④活動に触れる・感じる	<ul style="list-style-type: none"> 「奉仕体験活動」を行い、社会に貢献することの意義を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 各個人が選択した「奉仕体験活動」を実践する。また、日誌などの記録を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の活動の様子についての的確に把握し、活動先と連携して、生徒の活動を支援する。 生徒の行動を肯定するような言葉掛けを行う。
	「地域連携グループ」（町会と連携し、地域のニーズに応じた活動を行うグループ）			
	①出会う	<ul style="list-style-type: none"> 学校が設定した交流活動を行う。 第1回地域清掃活動に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒も町会の方も楽しめ、交流が深められるような内容を考える。 	
	②考える	<ul style="list-style-type: none"> 町会の方と共にできる交流活動を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 交流活動を企画するに当たっては、町会の方の意見を聞き、地域の実態を把握しながら、互いに楽しめる活動を考えさせる。 	
	③準備する	<ul style="list-style-type: none"> 交流活動の準備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 参加者が多様な年齢層であることを考え、安全に留意して準備を行う。 	
	④触れる・感じる	<ul style="list-style-type: none"> 交流活動を実施する。 第2回地域清掃活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に活動し、それを支援できるようにする。 	
	⑤振り返る	<ul style="list-style-type: none"> 町会と連携して実施した活動について振り返る。 高校生として、地域に貢献できる活動について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の実態やニーズを踏まえ、今後取り組める活動について考えさせる。生徒が住んでいる地域のニーズとも関連付け、身近な所で取り組める社会貢献についても考えられるようにする。 	
	⑤活動を振り返る	<ul style="list-style-type: none"> 「奉仕体験活動」を振り返り、課題や成果をまとめ、今後の改善につなげる。 「奉仕」の学習の全体を振り返って、社会や地域に貢献することの大切さを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「奉仕体験活動」を振り返り、課題や成果をまとめる。 「奉仕」の学習の全体を振り返り、社会や地域に貢献することの大切さについて考える。 生涯にわたって、社会に貢献することについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 「奉仕体験活動」についての各自の感想や課題意識を、発表会などを行うことで共有化し、新たな活動へ結び付けられるようにする。また、発表の内容が活動先にも伝わるように、発表会に招いたり、資料を送付したりする。 身近な生活の場面で自分には何ができるのかを考えさせる。 将来、奉仕活動を行うための情報収集の方法などについても触れる。

4 「奉仕」を推進する組織（案）の設定の提案

(1) 「奉仕」を推進する組織（案）

「奉仕」のねらいを効果的に達成することや活動先を開拓するためには、関係機関との連携が有効であるため、「奉仕」を推進する組織を構築することを提案する。そこで、「奉仕」を推進する組織（案）を下図のように示した。

「奉仕」を推進する組織は、校内の基本構想案の策定や、実際に「奉仕体験活動」を推進していく校内委員会と、幅広く情報収集や意見収集、活動先との連携、調整を行う「奉仕」推進委員会を想定した。

校内委員会	「奉仕」推進委員会
<ul style="list-style-type: none"> ・管理職 ・「奉仕」推進担当2名 ・各分掌から1名 ・該当学年から 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアセンターのスタッフ ・NPO関係者（複数名、福祉や社会教育施設、青少年育成団体などの関係者も対象とする） ・学識経験者（ボランティア、NPO、青少年教育、福祉、環境、国際協力などにかかわる学識経験者） ・地域の行政機関の職員（区市教育委員会の指導課、生涯学習課の職員、広く区市町村の役所の職員） ・地域の自治会の方

東京都設定教科・科目「奉仕」（仮称）カリキュラム開発委員会 中間報告書（案）平成18年1月を基に作成

(2) 各委員会の役割

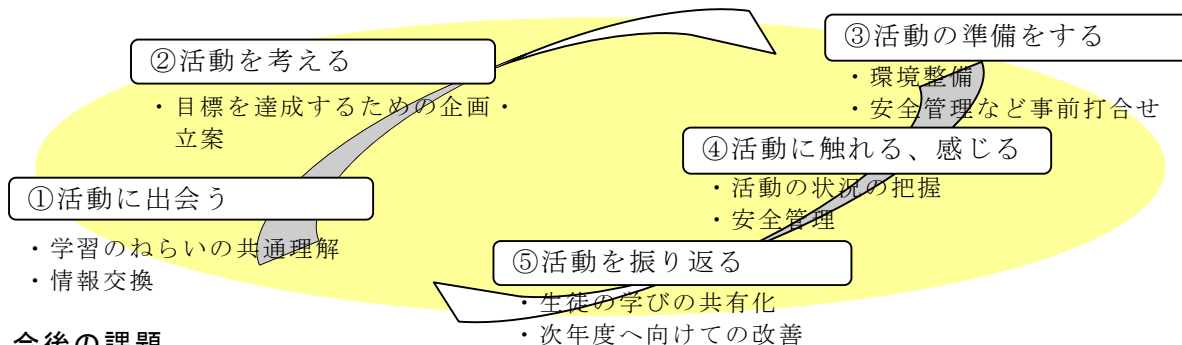
各委員会の役割を下表のように考えた。

校内委員会	「奉仕」推進委員会
<ul style="list-style-type: none"> ○基本構想（案）の策定 <ul style="list-style-type: none"> ・「奉仕」の目標の設定 ・生徒に身に付けさせたい力の明確化 ・保険の加入や予算措置など ○年間授業計画の作成 ○「奉仕体験活動」全体の取りまとめ <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が活動先を選択する際の調整 ・緊急時の対応 ・活動の状況の把握 ・教員の指導体制など ○次年度への引継ぎ 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報提供 <ul style="list-style-type: none"> ・活動先の開拓のための情報提供 ・基本構想（案）や年間授業計画に対する助言 ○活動の場の提供 <ul style="list-style-type: none"> ・受け入れ体制の整備 ○事前学習、活動中、事後学習において、生徒の活動に対して助言を行うなどの支援 ○生徒の活動に対する意見・感想 ○当該年度の、学習の取組み状況に対しての助言

東京都設定教科・科目「奉仕」（仮称）カリキュラム開発委員会 中間報告書（案）平成18年1月を基に作成

(3) 「奉仕」を推進する組織（案）における連携及び運営上の留意点

「奉仕」を推進する組織（案）の運営に当たっては、生徒の学びの段階に応じて下記のような内容を中心に留意し、運営を行う。



IV 今後の課題

来年度、所属校において平成19年度の必修化に向けた準備を行い、内容をさらに充実させていく。